

学会記事

第4回研究報告全国大会

第4回研究報告大会は1983年11月12～13両日、成城大学で開催された。まずEC委員会駐日代表のローレンス・J・プリンクホルスト氏の特別講演“Community Law and National Law in the Open Community”があり、引続いて共通論題——ECの対外関係——についての報告があった。最初に中原喜一郎会員の「欧州議会の対外関係」という一見奇異にも感じられるが同時にユニークで大変興味深い報告があった。あとの討論でも議論されたように興味深いけれども、どれだけの実効性があるのか、が議論の中心となった。次の二つは期せずしてECの開発途上国との関係にしばられた。対外関係という共通論題からすれば、より広い視点も望まれるかもしれないが、前年度の共通論題が日・米・欧三極関係であったことからすれば、むしろこの方が焦点が定まって結果的には良かったと思う。本大会の報告のプログラムは以下の通りである。

なお岩本純会員の「職場の労使関係」は都合により本誌に掲載できなかった。

〈プログラム〉

第1日(11月12日)

午前の部

〈特別講演〉

司会者 横川 新(成城大学)

Community Law and National Law in the Open Community

ローレンス・J・プリンクホルスト(駐日EC委員会代表)

〈共通論題〉(ECの対外関係)

司会者 島野卓爾(学習院大学)

(1) ECの地中海政策

棚池康信(福山大学)

午後の部

司会者 金丸輝男(同志社大学)

(2) ECの開発援助政策

大隈 宏(成城大学)

(3) 欧州議会の対外関係

中原喜一郎(東海大学)

(4) 全体討論

第2日(11月13日)

午前の部

〈自由論題〉

司会者 清水貞俊(立命館大学)

(1) 職場の労使関係

岩本 純(早稲田大学)

(2) いわゆるフレデリック法案をめぐる経済、社会的諸問題

澤田マルガレーテ(筑波大学)

午後の部

司会者 平 良(慶應義塾大学)

(3) EC反ダンピング規則に基づく対日提訴の基本的問題点

喜多一行(東洋通信機)

司会者 小原喜雄(神戸大学)

(4) 主要EC諸国における家庭電気製品の流通実態と

日本の流通制度との若干の比較

金子 晃(慶應義塾大学)

(なお、所属は学会報告当日のもの)

海外の学会および大学との交流

日本EC学会では、海外のEC関連学会および大学との間で相互の交流を深めるために、研究大会等の情報および機関誌の交換を行なっています。下記のリストは、『日本EC学会年報』をお送りし、交流の回答をいただいた諸機関です。会員皆様のご留学、ご出張の際にお役立て下さい。先方から研究大会の案内や機関誌が送られてきておりますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。